

令和4年度登録分

前橋市景観資産登録制度

①赤城山大鳥居

富士見エリア

〔富士見町小暮305-4 昭和40年〕

赤城山の鎮魂加護を祈念し建設された一の鳥居が起源で、道路拡張によって撤去された後、当時の前橋観光協会が中心となって浄財を募り、現在の大鳥居が建設された。

ここが魅力！ 高さ21.3mで柱の直径は1.7mのひときわ目を引く朱色の大鳥居で、前橋赤城線をまたいで聳え立つ姿は圧巻である。



②熊野神社

前橋市中心部

〔千代田町3丁目8-12 昭和30年再建〕

出雲国八束熊野から分社、勧請されたと伝わる。前橋空襲で社殿が焼失したが、氏子らの手により再建された。祭神は櫛御氣野命で古くから神社の使者として八咫鳥が祀られている。また、大西市には例年多くの人が訪れ街のにぎわいとなっている。

ここが魅力！ 立川町通りアーケードから鳥居、参道とその奥に本殿を望むことができ、街中にある歴史文化の風情を感じることができる。



③愛宕神社

前橋市中心部

〔住吉町2丁目5-22 昭和52年再建〕

寛永7年に京都府亀岡市千歳町愛宕の宗社より分社を奉斎し、鎮座したとある。火産霊命を祭神とし、火伏の神として信仰を集めた。また、前橋城の鬼門除けとして、城から北東の位置に建てられたと伝わる。

ここが魅力！ 広瀬川河畔、交水堰の北から住宅街の奥に鳥居と本殿を望む風景は、得も言われぬ趣を与えている。



④植野稻荷神社（一本木稻荷）

緑社エリア

〔総社町桜が丘1039-2 明和7年（1770）※本殿〕

創立年代は不詳だが、慶長7年に秋元長朝が総社城を築城した際、城の守護神として崇拝し天狗岩用水開削にあたり五穀豊穡の願を掛けたことから流域の農民からも崇敬が深かったと伝わる。境内に榎の巨木があったことに由来して、一本木稲荷とも呼ばれる。

ここが魅力！ 秋元氏や酒井氏といった歴代の城主との縁が深く、また、市の無形文化財である「植野稲荷太々神楽」の舞台であり、前橋の歴史文化を感じることができる。



⑤諏訪神社

桂萱エリア

〔上泉町271 弘化4年（1847）〕

優れた彫刻のある本殿は、棟札によると弘化4年の築造であり、彫刻は、前橋藩公儀彫刻師岸義福の手による。当時は「七福神社」と言い、明治41年「上泉神社」に改称、さらに昭和4年に「諏訪神社」へ改められた。

ここが魅力！ 剣聖上泉伊勢守が奉納したと伝わる獅子頭や笛によって演じられる「上泉の獅子舞」は市の無形文化財であり、剣聖の伝説と共に地域の歴史を彩るものである。



建造物等

風景と視点場



私有地内に立ち入っての見学はご遠慮ください。

⑥赤城山大沼のアイスバブル

赤城山エリア

〔赤城山大沼湖畔 ※結氷後〕

赤城山山頂の大沼が全面結氷する時期に見ることができる。湖面が凍る際、湖底から発生するメタンガスが氷の中に閉じ込められ、白い円盤が重なり合う景色となる。

ここが魅力！ 湖面が全面結氷した後、雪が積もる前のわずかな期間に見ることができる貴重な風景であり、国内でも北海道など見られる場所は限られる。



⑦赤城山鳥居峠からの雲海

赤城山エリア

〔赤城山鳥居峠〕

鳥居峠の東方一面を覆う雲海が大海原のように見える絶景である。また、覚満淵・大沼方面を覆う光景も見ることができる。

ここが魅力！ 気象条件に左右されるが、市内から比較的近い場所で雲海を見ることができる貴重な視点場である。



⑧赤城山と田園風景（寝姿観音と田園逆さ赤城）

城南エリア

〔荒子町〕

城南付近からみる赤城山は観音様の寝姿に例えられる山並みであり、その姿を背景に四季折々に変化していく田園風景を見ることができる。

ここが魅力！ 季節や時間帯で刻々と変化する赤城山の姿は、前橋に暮らす人々の原風景ともいえ、親しみを感じる。



⑨端気町から眺望する赤城山

芳賀エリア

〔端気町〕

大宝橋から端気町に向かってサイクリングロードを歩くと一面の田んぼが広がり、その先に赤城山の姿を眺望することができる視点場である。

ここが魅力！ 建物や電線に遮られずに赤城山を見ることができる貴重な視点場である。



⑩上毛大橋から眺望する赤城山と利根川

南橋エリア

〔川原町〕

上毛大橋から北に向かって赤城山と利根川を眺望する視点場であり、前橋を象徴する風景である。

ここが魅力！ 赤城山、利根川の織りなす壮大なパノラマ風景を楽しむことができる。



富士見エリア



総社エリア



前橋市中心部



募集等、制度に関する詳細については、
こちらのサイトをご覧ください。

前橋市都市計画課景観・歴史まちづくり係

赤城山エリア

⑥ 赤城山大沼アイスバブル



⑦ 赤城山鳥居峠からの雲海



城南エリア



桂萱・芳賀エリア

